

歯周病検査導入による今後の展望

～ 新規検査項目開拓から進捗状況まで ～

◎天野 陽生¹⁾、大塚 瑞穂¹⁾
独立行政法人 地域医療機能推進機構 山梨病院¹⁾

【はじめに】歯周病ケアは、早期発見、発症の進行を抑えることが重要である。全身の健康との関係性についても種々報告があり、歯周病検査の有用性は益々高まっている。今回、我々は唾液を用いた歯周病検査について検討し知見を得たので報告する。

【対象と方法】対象は当院健診センターに2020年9月から11月までの受診者とし、アンケート調査を実施した。アンケートの回答選択は歯周病検査を「是非受けてみたい」「どちらでも良い」「受けたくない」とした。結果を経て健診項目への新規追加を検討することにした。コロナ感染拡大につき、進行の停滞期間が続いたが、2022年9月に健診センターから歯周病検査を再度進めたいとの意向を受け、次の6点を施設で協議した。①検診受診者の要望度②歯科医師会との連携（山梨県内全ての歯科施設にて歯周病唾液検査の理解と周知及び追跡調査の協力）③唾液採取セットを正しく使用いただくための啓発方法④検査結果報告書及びパンフレットの作成⑤開始日の決定と開始までの受診者への啓蒙活動⑥検査費用の設定。

検査には装置：OCセンサー DIANA（栄研化学）、試薬：OC-ヘモディアオートⅢ‘栄研’（栄研化学）を使用した。LD検査には装置：BM 6020（日本電子）、試薬：Lタイプワコー LD・IF（富士フィルム和光純薬）を使用した。また、追跡調査を実施し、結果が陽性患者において歯科診断の結果との相関関係を検証した。

【結果】アンケート結果は257人から回答を得られ、ぜひ受けてみたい87%どちらでも良い13%受けたくない0%であった。新規検査項目という位置付けで実証試験を実施し、結果良好のため、2023年4月から検査実施を開始した。歯周病検診受診者による感想及び検診結果、また歯科検診結果との相関関係については発表時に報告する。

【考察まとめ】生活習慣病疾患と大きく結び付けられる口腔疾患を、成人病健診受診と同時に検査を受けられる体制を整えたことは、今後の全身の健康維持を保つことに大いに貢献するものと考えられる。歯学と医学の垣根を超えた検診事業を今後も展開していきたいと考える。

連絡先 055-252-8831 (1110)